

平成26年6月17日

平成26年度病虫害発生予報第3号

長崎県病虫害防除所長

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
早期水稲	いもち病（葉いもち） 紋枯病	並 並	並 並
水稲共通	ヒメトビウンカ(技術情報第2号) 縞葉枯病(技術情報第2号) ツマグロヨコバイ 萎縮病 セジロウンカ トビイロウンカ コブノメイガ	並 少 並 並 並 並 並	並 少 並 並 並 並 並
いちご (育苗床)	うどんこ病 炭疽病(<i>Glomerella cingulata</i>) ハダニ類	少 並 並	やや少 並 並
アスパラガス	アザミウマ類	やや多	やや多
かんきつ	かいよう病 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ ヤノネカイガラムシ	並 並 やや少 並 並	並 並 やや少 並 並
びわ	がんしゅ病 灰斑病 ナシヒメシンクイ	やや少 やや多 並	やや少 やや多 並
なし	黒星病 ナシヒメシンクイ	やや少 並	やや少 並
ぶどう	べと病 黒とう病 チャノキイロアザミウマ	並 並 並	並 並 並
果樹共通	カメムシ類	並	並
茶	炭疽病 チャノキイロアザミウマ チャノココクモンハマキ チャノホソガ カンザワハダニ チャノミドリヒメヨコバイ クワシロカイガラムシ	並 やや多 並 並 並 やや多 並	並 やや多 並 やや多 並 やや多 並

【発生予報】 本文の()内は平年値

早期水稲

1. いもち病(葉いもち)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(41筆)の結果、発生を認めなかった。(発生株率0.0%、発生圃場率0.0%)。

イ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

ウ 葉いもちの感染に好適な条件を満たした日は下表のとおりである(葉いもち感染好適条件判定モデルによる。詳細はホームページを参照)。

	長崎	佐世保	島原	平戸	松浦	厳原	芦辺	福江	大瀬戸	口之津
6月1日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月2日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月3日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月4日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月5日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月6日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月7日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月8日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月9日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
6月10日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月11日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月12日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月13日	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
6月14日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月15日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6月16日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
発生指標	? : 判定不能	- : 好適条件なし	1 : 準好適条件1	2 : 準好適条件2	3 : 準好適条件3	4 : 準好適条件4	: 好適条件			

2. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(41筆)の結果、発生を認めなかった(発生圃場率0.0%、発病株率0.0%)。

イ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

水稲共通

1. ヒメトビウンカと縞葉枯病

平成26年6月17日付け病害虫発生予察技術情報第2号による。

2. ツマグロヨコバイと萎縮病

(1) 予報内容

発生程度 ツマグロヨコバイ 並
萎縮病 並

(2) 予報の根拠

- ア 5月下旬のイネ科雑草地(3地点)から採集したツマグロヨコバイ(第1世代)についてイネ萎縮ウイルスの保毒虫率検定を行った結果、保毒虫率は0%(0%)であった。
- イ 6月上旬の巡回調査(41筆)の結果、早期水稲におけるツマグロヨコバイの株当たり虫数は0.02頭(0.1頭)、発生圃場率は24.4%(24.0%)であった。萎縮病の発生は認めなかった(発生を認めない)。
- ウ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、早期水稲におけるツマグロヨコバイの株当たり虫数は1.0頭(2.0頭)であった。萎縮病の発生は認めなかった(発生を認めない)。

3. セジロウンカ、トビイロウンカ

(1) 予報内容

発生程度	セジロウンカ	並
	トビイロウンカ	並

(2) 予報の根拠

- ア セジロウンカは、6月1日に予察灯(諫早市)で初確認した。トビイロウンカは、6月16日現在でネットトラップ及び予察灯での誘殺を認めていない。
- イ 6月上旬の巡回調査(41筆)の結果、早期水稲におけるセジロウンカの株当たり虫数は0.01頭(0.1頭)、発生圃場率は17.1%(24.9%)であった。トビイロウンカの発生は認めなかった(発生を認めない)。
- ウ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、早期水稲、無防除)調査の結果、セジロウンカ、トビイロウンカともに発生を認めなかった(セジロウンカ:1.1頭、トビイロウンカ:発生を認めない)。
- (3) 防除上注意すべき事項
今後の飛来状況に注意する。

4. コブノメイガ

(1) 予報内容

発生程度	並
------	---

(2) 予報の根拠

- ア 6月16日現在でフェロモントラップ(諫早市)での誘殺を認めていない。
- イ 6月上旬の巡回調査(41筆)の結果、発生は認めなかった(早期水稲:食害株率0.0%、10㎡当たり成虫数0.0頭)。
- ウ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、早期水稲、無防除)調査の結果、食害株、及び成虫の発生は認めなかった(食害株率:0.3%、成虫の10㎡当たり虫数0.0頭)。
- (3) 防除上注意すべき事項
今後の飛来状況に注意する

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度	やや少
------	-----

(2) 予報の根拠

- ア 6月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率は1.3%(8.8%)、発生圃場率は12.1%(47.5%)であった。
- イ 向こう1か月の気温は平年並か低い見込みであり、本病の発生に好適である。

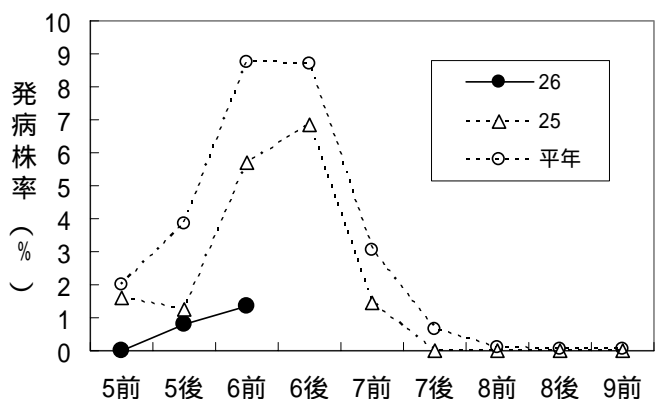


図 うどんこ病発病株率の推移

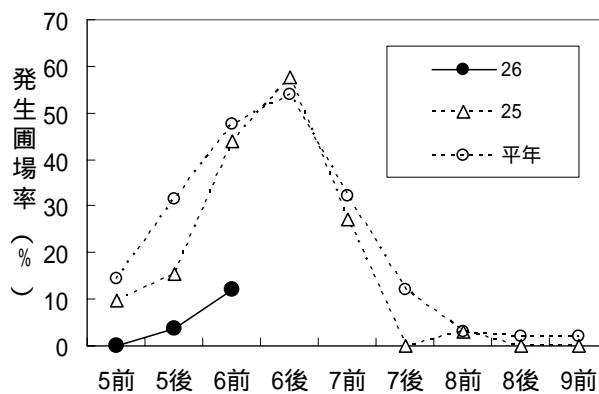


図 うどんこ病発生圃場率の推移

2. 炭疽病 (*G. cingulata*)

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.0%、発生圃場率0.3%)。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 育苗床が多湿にならないように、長時間のかん水はしない。ポット間隔を十分にとり、排水対策を確実に行う。また、除草を徹底するなど、環境整備に努める。
- イ 発病した子苗およびその周辺の株は速やかに処分する。また、発病した親株から採苗した子苗は育苗せずに処分する。除去した発病株や茎葉は、圃場内やその周辺に放置しない。
- ウ 葉の展開間隔にあわせて定期的に薬剤防除する。特に長雨、台風などの前後、下葉除去など株を傷つけるような作業後は重点的に行う。

3. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(33筆)の結果、寄生株率は1.8%(1.9%)、発生圃場率は24.2%(22.0%)であった。

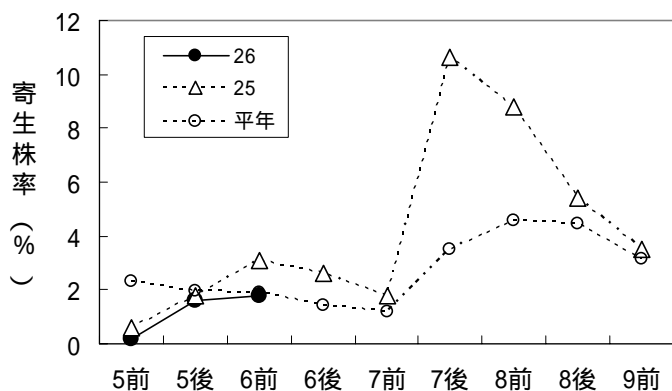


図 ハダニ類 寄生株率の推移

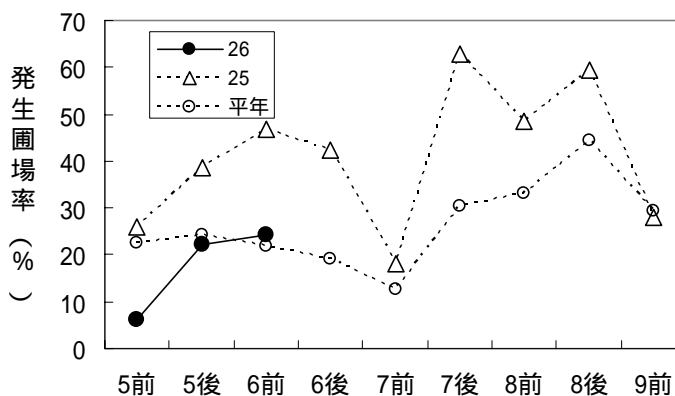


図 ハダニ類 発生圃場率の推移

アスパラガス

1. アザミウマ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm×22.5cmの白色板に5回×10ヶ所)は35.9頭(過去7年平均22.8頭)、発生圃場率は75.0%(過去7年平均76.2%)であった。

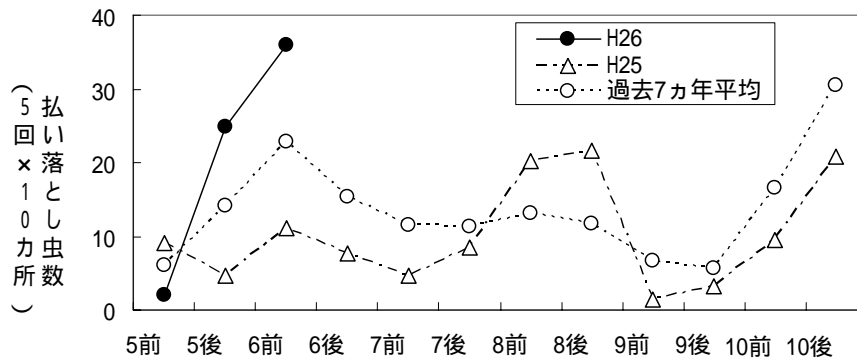


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移(巡回調査)
払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

かんきつ

1. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発病葉率は0.3%(0.1%)、発生圃場率は8.3%(9.0%)であった。

2. 黒点病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率0.0%)。

イ 向こう1ヶ月の降水量は平年並と予想される。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は4.0%(6.4%)、発生圃場率は30.6%(46.1%)であった。

4. チャノキイロアザミウマ

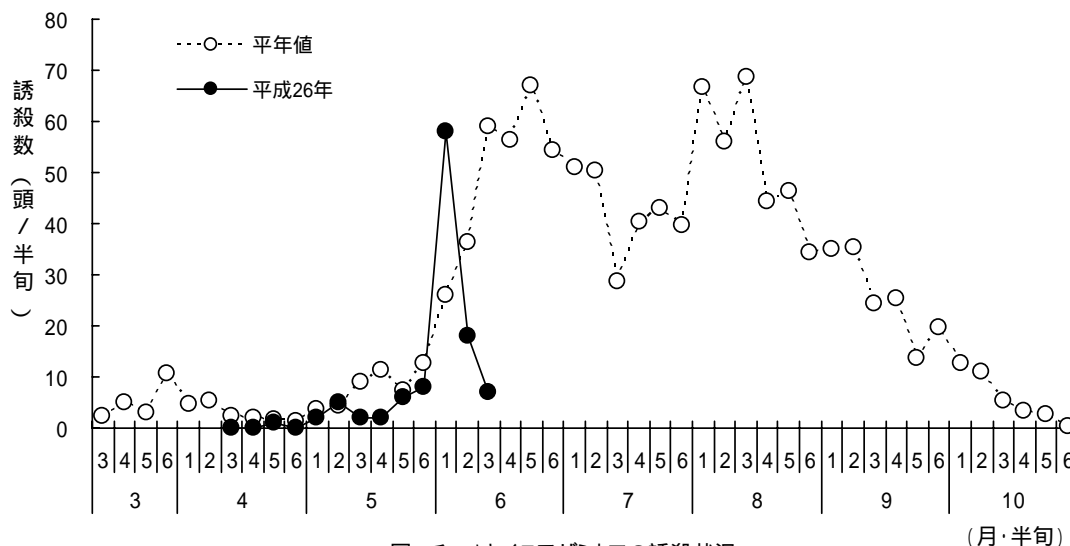
(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発生を認めなかった(被害果率0.0%、発生圃場率0.5%)。

イ 黄色粘着トラップ(諫早市小船越町)による誘殺量は、平年並で推移している(図)。



(3) 防除上注意すべき事項

各地区の防除適期（有機リン剤の場合、初発日の40日後）は下表のとおりと予測される。

表 ヤノネカイガラムシの初発生予測日および防除適期

地点	長崎	大村	島原	口之津	大瀬戸	佐世保	松浦	平戸	福江	石田	厳原	長崎 (平年値)
初発生予測日	5/5	5/8	5/7	5/6	5/7	5/6	5/9	5/8	5/6	5/9	5/10	5/8
前年予測日	5/7	5/10	5/8	5/7	5/10	5/8	5/11	5/11	5/7	5/11	5/12	-
IGR剤防除適期	5/30	6/2	6/1	5/31	6/1	5/31	6/3	6/2	5/31	6/3	6/4	6/2
有機リン剤防除適期	6/14	6/17	6/16	6/15	6/16	6/15	6/18	6/17	6/15	6/18	6/19	6/17
標高(m)	27	3	9	10	43	4	5	58	25	26	4	27

注1: 初発生予測日は気象庁アメダスの気温データ(2014年1月1日～4月30日)を用いて「果樹防除適期判定システム(ヤノネカイガラムシ)」により算出した。

注2: IGR剤と有機リン剤の防除適期は、それぞれ初発日の25日後および40日後とした。

注3: 同一地区内でも、山間部では防除適期は遅れる場合があるので注意する。

びわ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発病枝葉率は0.4%(1.5%)、発生圃場率は20.0%(51.3%)であった。

2. 灰斑病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発生枝葉率は18.0%(7.2%)、発生圃場率は100%(75.0%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

梅雨期の雨により発生が助長されるため、殺菌剤を散布して新葉の感染を抑制する。

3. ナシヒメシンクイ

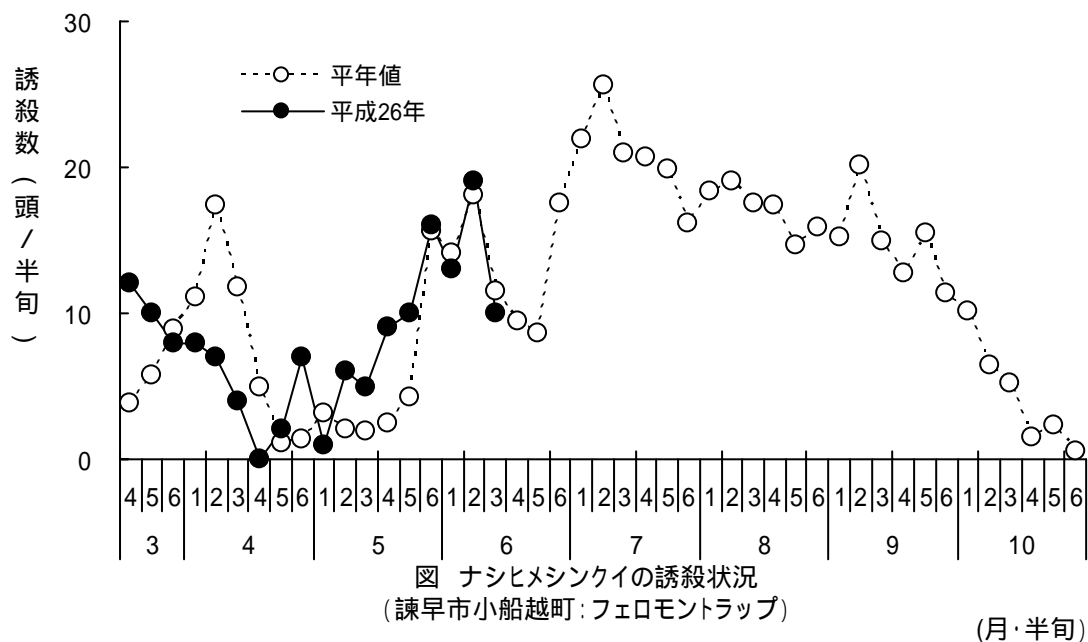
(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(10筆)の結果、寄生枝葉率は0.2%(0.1%)、発生圃場率は10.0%(2.5%)であった。

イ 諫早市小船越町のフェロモントラップの誘殺量は平年並で推移している(図)。



なし

1. 黒星病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、葉では、発病葉率は0.0%(0.7%)、発生圃場率は8.3%(40.5%)であった。また果実では、一部多発圃場が見られ、発病果率は0.5%(0.1%)、発生圃場率は8.3%(9.8%)であった。

2. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

フェロモントラップ(諫早市小船越町)での誘殺量は平年並で推移している(びわの項参照)。

ぶどう

1. ベと病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.0%、発生圃場率3.1%)。

2. 黒とう病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、葉では、発病葉率は0.0%(0.2%)、発生圃場率は8.3%(12.5%)であった。また果房では、発病果房率は0.0%(0.0%)、発生圃場率は8.3%(3.1%)であった。

3. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(被害果房率0.4%、発生圃場率10.4%)。

イ 黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年並で推移している(かんきつの項参照)。

果樹共通

1. カメムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア フェロモントラップの誘殺量は、諫早市小船越、諫早市多良見および西海市西彼町で平年並みに推移し、南島原市有家町では平年より少なく推移している(下図)。

イ 6月上旬の巡回調査の結果、かんきつ、なしおよびびわ圃場への飛来を認めなかった。

ウ 病害虫防除員の報告によると、一部のかんきつ及びなし園への飛来が認められている。

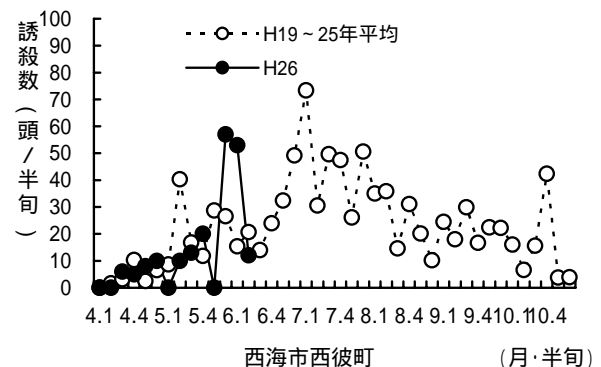
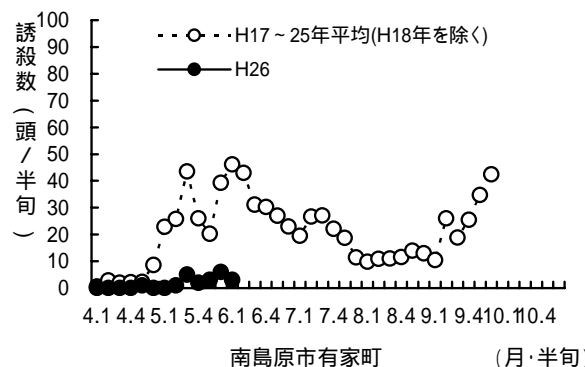
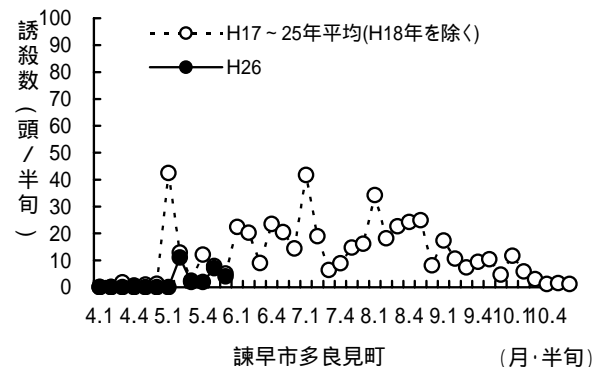
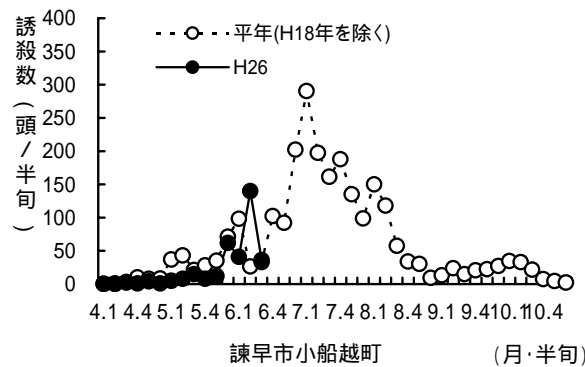


図 チャバネアオカメムシ・ツヤアオカメムシの誘殺状況(黄色コガネコール)

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡当たり発病葉数は0.5枚(0.4枚)、発生圃場率は30.0%(18.8%)であった。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は86.3頭(18.8頭)、発生圃場率は100%(83.8%)で、一部多発圃場が見られた。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤感受性低下防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。

3. チャノコカクモンハマキ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(1㎡あたり巻葉数0.0枚、発生圃場率4.4%)。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は、4月6半旬~5月1半旬にピークが見られ、ほぼ平年並で推移している(図)。

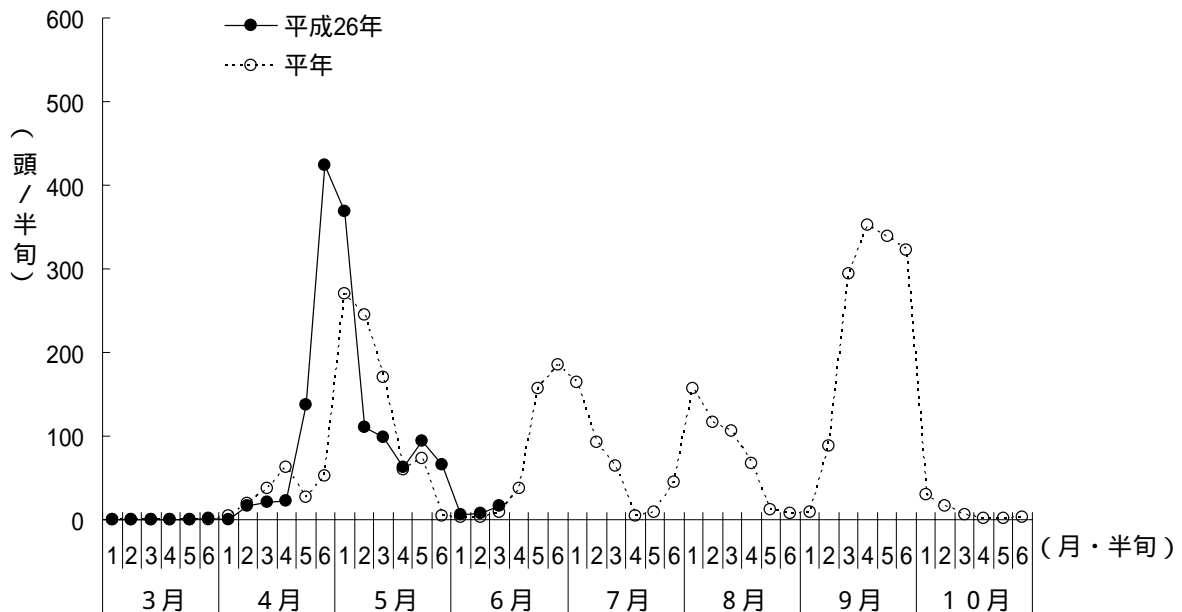


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況(東彼杵：フェロモントラップ)

4. チャノホソガ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(1㎡あたり巻葉数0.0枚、発生圃場率5.6%)。

イ フェロモントラップによる誘殺量(農林技術開発センター茶業研究室調査)は、6月2半旬にピークが見られ、平年より多く推移している(図)。

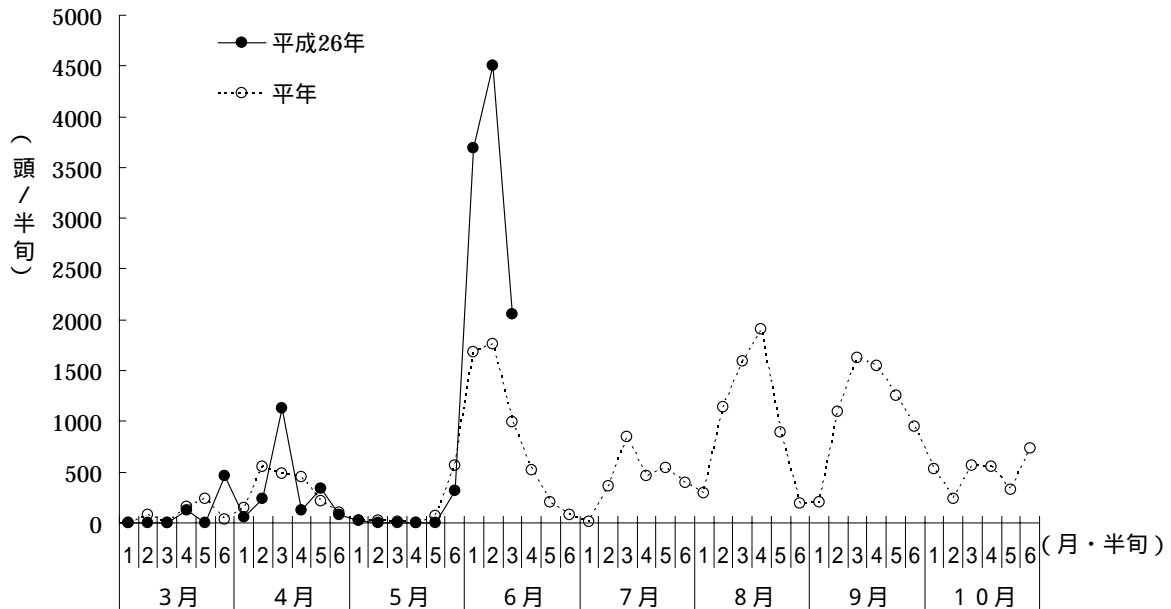


図 チャノホソガの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)

5. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生葉率は2.9%(2.4%)、発生圃場率は25.0%(20.6%)であった。

6. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は5.3頭(2.5頭)、発生圃場率は65.0%(55.6%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤感受性低下防止のため、同一系統の薬剤は連用しない。

7. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生株率は10.3%(7.1%)、発生圃場率は50.0%(39.4%)であった。

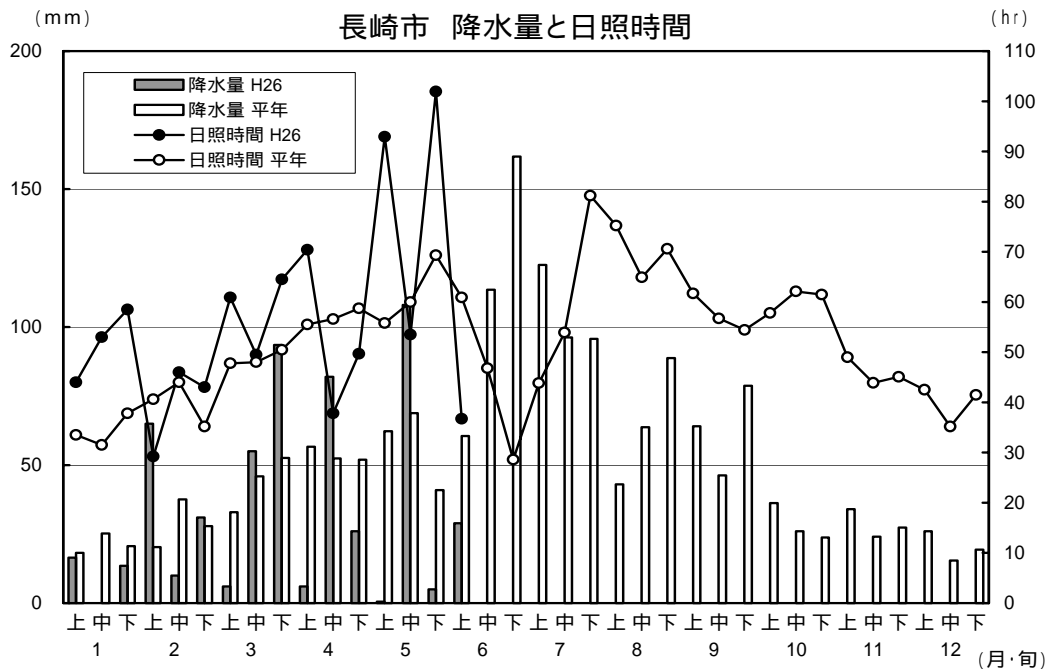
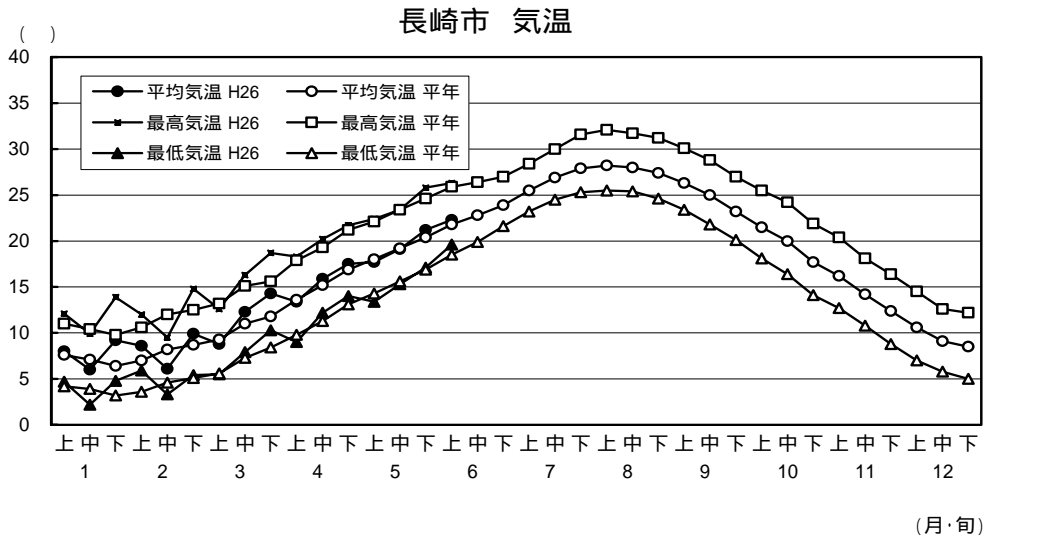
【参考】
気象

(平成26年6月12日発表 1か月予報 福岡管区気象台)
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	40	40	20
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

予報対象地域：九州北部地域

平成26年の気象経過 (長崎地方気象台)



6月1日から8月31日までの3ヶ月間を「農薬危害防止期間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。

病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnp.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせは、電話でお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027